令和6年度　喜連中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果･課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1　「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1　「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

(1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

(2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。

(3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。

(4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2　「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

(1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。

(2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

(3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3　「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

(1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。

(2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

令和6年度　喜連中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

1　全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数（人）	平均正答率（%）		平均無解答率（%）	
			国語	数学	国語	数学
3　年	学校	157	50	44	5.7	14.1
	大阪市	―	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	―	58.1	52.5	3.9	11.3

2　中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数（人）	平均点（点）					平均無解答率（%）				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3　年	学校	183	59.5	40.9	40.1	41.8	39.8	5.8	5.8	17.6	5.8	9.4
	大阪市	―	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
	大阪府	―	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2　年	学校	157	59.3	38.1	44.1	49.6	50.6	7.5	3.9	5.2	1.2	4.8
	大阪市	―	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
	大阪府	―	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1　年	学校	175	54.5	54.9	42.3	50.1	53.5	9.3	4.3	10.4	4.8	5.1
	大阪市	―	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
	大阪府	―	58.5	―	49.8	―	61.5	9.4	―	8.8	―	5.8

※　1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※　1年生の理科は物理的領域を選択

※　2年生の社会はA問題を選択　2年生の理科はB問題を選択

※　3年生の理科はC問題を選択

3　大阪市英語力調査（GTEC）

学年 実施月日		生徒数（人）	読むこと【リーディング】（スコア）	聞くこと【リスニング】（スコア）	書くこと【ライティング】（スコア）	話すこと【スピーキング】（スコア）
3　年	学校	183	80.4	83.7	115.0	67.8
	大阪市	―	105.7	104.6	149.6	102.1

令和6年度　喜連中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

調査結果から

【成果と課題】
〇中学生チャレンジテスト（2年生）結果

＜　国　語　＞
全体の平均正答率では府平均を6.2ポイント、市平均を6.8ポイント下回り、無回答率では府平均を1.8ポイント、0.9ポイント上回っている。
領域別での平均正答率では、
・言葉の特徴や使い方に関する事項おいて府平均を1ポイント、市平均を0.9ポイント下回っている。
・情報の扱い方に関する事項において府平均を0.6ポイント、市平均を0.6ポイント下回っている。
・我が国の言語文化に関する事項において府平均を1.6ポイント、市平均を1.9ポイント下回っている。
・話すこと・聞くことに関する事項において府平均を1.2ポイント、市平均を1.3ポイント下回っている。
・書くことに関する事項において府平均を0.9ポイント、市平均を1.0ポイント下回っている。
・読むことに関する事項において府平均を2.9ポイント、市平均を3.2ポイント下回っている。

＜　社　会　＞
全体の平均正答率では府平均を11.4ポイント、市平均を11.8ポイント下回り、無回答率では府平均を1.3ポイント、市平均を0.7ポイント上回っている。
領域別での平均正答率では、
・地理的分野に関する事項において府平均を6.0ポイント、市平均を6.1ポイント下回っている。
・歴史的分野に関する事項において府平均を5.4ポイント、市平均を5.9ポイント下回っている。

＜　数　学　＞
全体の平均正答率では府平均を6.6ポイント、市平均を7.3ポイント下回り、無回答率では府平均を4.3ポイント、3.0ポイント下回っている。
領域別での平均正答率では、
・数と式に関する事項において府平均を1.1ポイント、市平均を1.6ポイント下回っている。
・図形に関する事項において府平均を2.6ポイント、市平均を2.8ポイント下回っている。
・関数に関する事項において府平均を2.8ポイント、市平均を2.9ポイント下回っている。

＜　理　科　＞
全体の平均正答率では府平均を2.4ポイント、市平均を0.1ポイント上回り、無回答率では府平均を6.2ポイント、市平均を4.9ポイント下回っている。
領域別での平均正答率では、
・「粒子」に関する事項において府平均を2.1ポイント、市平均を1.1ポイント上回っている。
・「生命」に関する事項において府平均を0.4ポイント上回り、市平均を0.7ポイント下回っている。
・「地球」において府平均と同数で、市平均を0.3ポイント下回っている。

＜　英　語　＞
全体の平均正答率では府平均を3,4ポイント、市平均を4.0ポイント下回り、無回答率では府平均を3.1ポイント、市平均を2.2ポイント下回っている。
領域別での平均正答率では、
・聞くことに関する事項において府平均を0.8ポイント、市平均を1.0ポイント下回っている。
・読むことに関する事項において府平均を1.4ポイント、市平均を1.6ポイント下回っている。
・書くことに関する事項において府平均を1.2ポイント、市平均を1.5ポイント下回っている。

【今後に向けて】

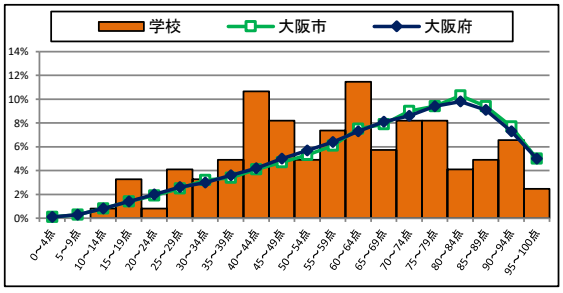
＜　国　語　＞
・基礎的な言葉の特徴や使い方に関する知識を定着させるため、さらに繰り返し練習し、覚えさせる必要がある。
・我が国の言語文化に関する事項においては「行書で筆順が変化している字を選択する」という問題に対して、書写の学習をさらに充実させる必要がある。
・話すこと・聞くことに関して、自分の意見,考え等を聞き手に分かりやすく伝えるための具体的な工夫について各自で考えさせる学習活動が必要があると考える。
・読むことに関する事項においては大きく課題が残った。文章の要約などの課題を出し、長文を読解できる能力を身に着ける必要がある。
＜　社　会　＞
総合的な部分として、知識不足が表れている。そのため、今後の対策としては授業の取り組み方の改善。知識の定着を図るため、各単元での小テスト等の実施を検討している。記述問題に関しては、全体平均のマイナスポイントに比べてマイナスが少ないが、これにおいても同様に各単元での課題として設定したい。
＜　数　学　＞
・数と式に関する事項においては、計算問題を授業の始めに解かせる等をして定着させる
・図形に関する事項においては、多くの図形に触れていき見えるように力を入れていく
・関数に関する事項においては、授業の中で多く触れ、教え合い等で実力を伸ばしていく
＜　理　科　＞
無回答率の低減を目指して，継続指導を行う。
＜　英　語　＞
・聞くことについては、引き続き積極的に英語を聞くことでさらに力をつけていきたい。
・読むこと、書くことについては、短文から長文へ抵抗なく読み書きする力をつけていくため、英語多読とライティングの量を増やしていく。

大阪市立喜連中学校　　令和6年度「中学生チャレンジテスト（2年生）」 検証用グラフ

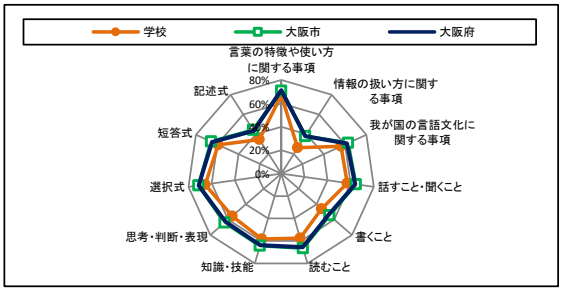
令和7年1月9日（木）実施

【 国 語 】

【得点分布】

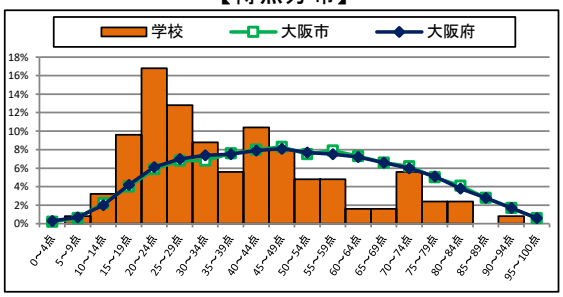


【領域・観点・問題別の分布】

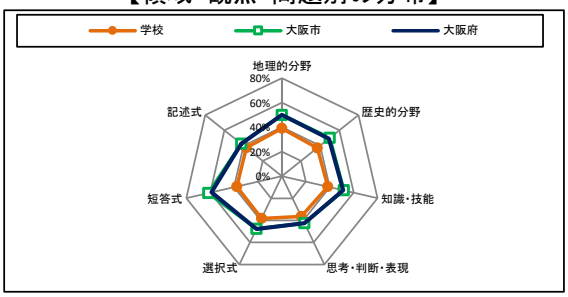


【 社 会 A 】

【得点分布】

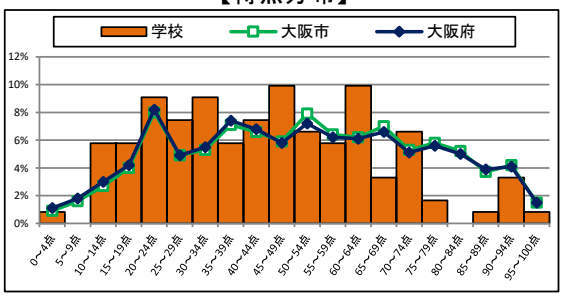


【領域・観点・問題別の分布】



【 数 学 】

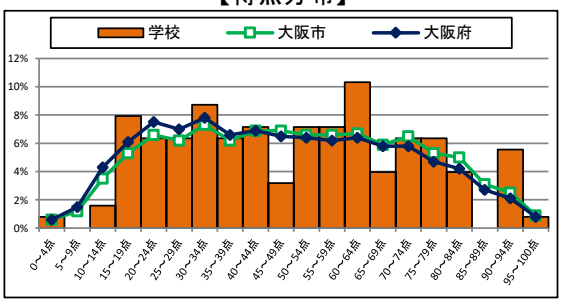
【得点分布】



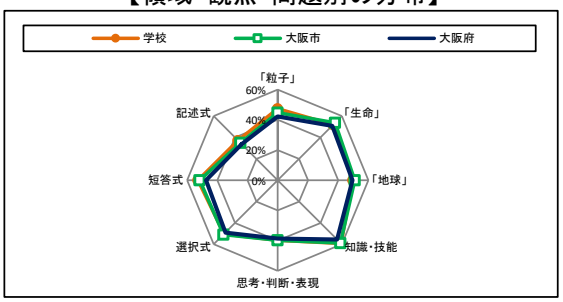
【領域・観点・問題別の分布】

【 理 科 B 】

【得点分布】

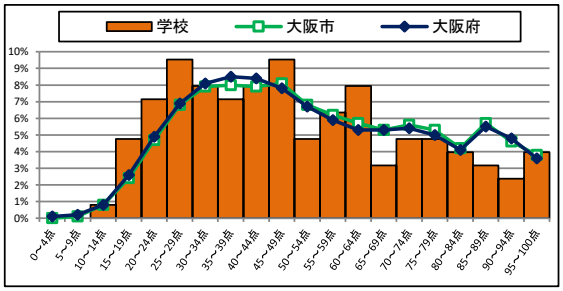
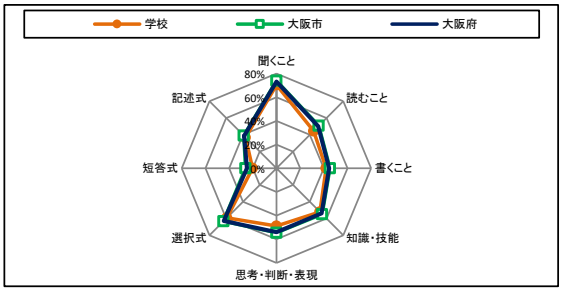


【領域・観点・問題別の分布】



【 英 語 】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】